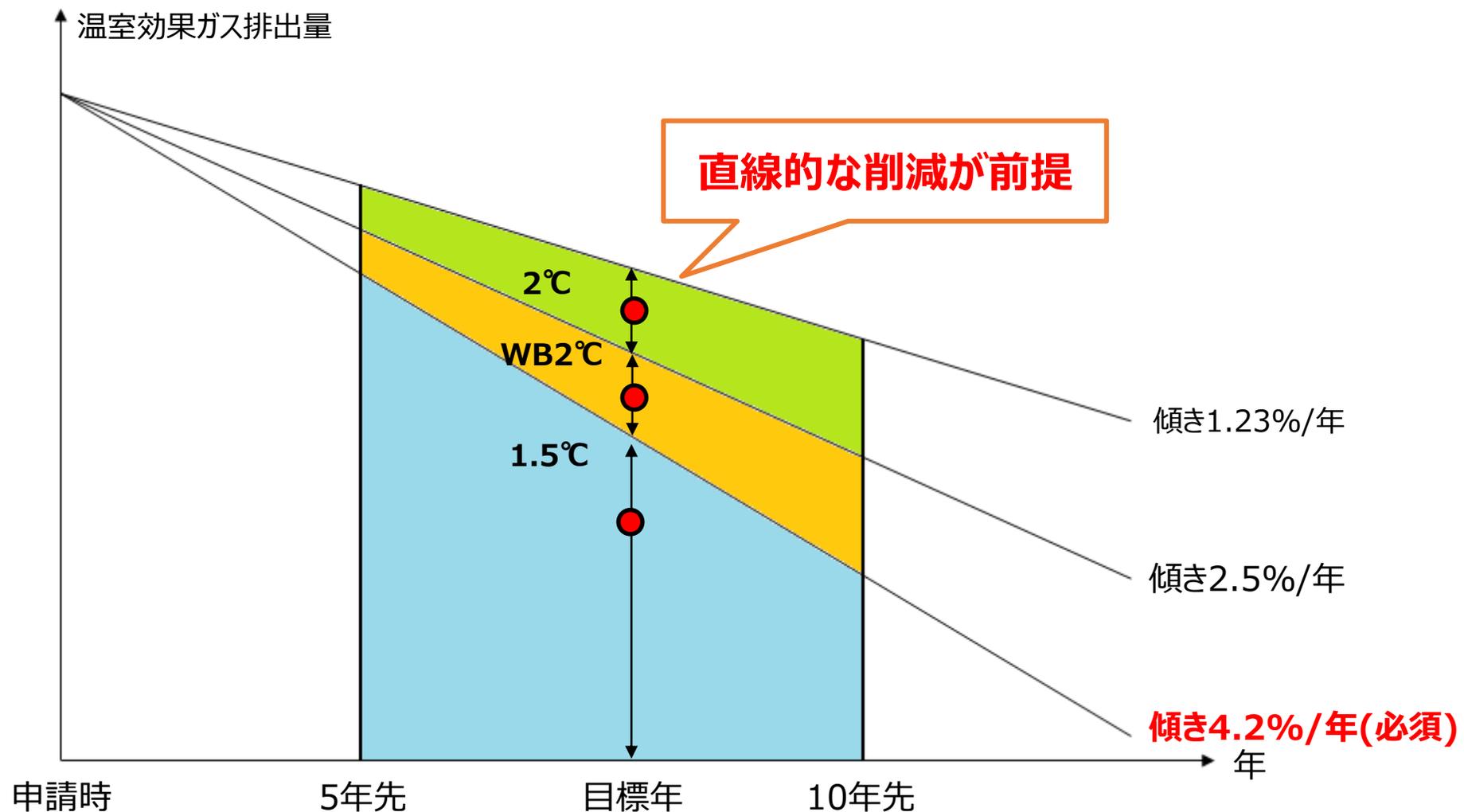

8. 短期SBTの設定手法

- Scope1,2のSBT設定手法として、原則「**総量削減**」、「**SDA**」の2手法を推奨している。

手法	概要	基準	認定水準
総量削減 Absolute Emissions Contraction	<ul style="list-style-type: none"> （当初の排出量実績に関係なく）全企業が排出総量を同じ割合で削減する手法。 目標の設定と進捗状況の把握が容易で分かり易い手法。 多くのセクターに応用が可能（ただし、使用が推奨されないセクターもある）。 	総量	1.5℃
SDA Sectoral Decarbonization Approach	<ul style="list-style-type: none"> IEAが定めたセクター別の原単位の改善経路に沿って削減する手法 SDAを利用可能なセクターは下記の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 空輸 ✓ 住宅建築 ✓ サービス・商業ビル ✓ セメント ✓ 金融機関 ✓ 鉄鋼 ✓ 海運 ✓ 電力 	原単位	1.5℃ (IEA B2DSシナリオ)

手法その1 総量削減 (Absolute Emission Contraction)

- ◆ 全企業が排出総量を同じ割合で削減する手法。
- ◆ 基準年から毎年同量を削減していく想定で、申請時から5～10年後の目標を設定。



- ✓ 総量削減アプローチは、全企業が排出総量を同じ割合で削減するものであるが、当然、部門・業種・業態によって、排出の実態やこれまでの削減取組の進捗も異なる。
- ✓ このため、SBTではいくつかの部門について、**2050年の、何らかの活動量当たりの原単位の低減水準を設定し、**その部門に該当する企業は、その原単位まで下げるという目標を設定するアプローチも用意している。

⇒ **Sectoral Decarbonization Approach (SDA)**

※具体的な2050年の部門ごとの原単位目標は、IEAが実施した最適化計算による原単位予測をベースにして、SBTiにて設定している。

- ✓ SDAの設定ではSBTiが公開している計算ツールを利用。
- ✓ 計算ツールに「**部門**」、「**基準年・目標年**」、「**事業活動・排出量に関するデータ**」を入力すれば、**目標とする原単位の改善率、削減量、削減率、削減経路が自動で計算される！**

※最新のSBTツール（Ver.2.1）では、化学・石油化学部門のScope1、2計算には利用できない。

セクター別ガイダンスの準備状況



セクター	SBTセクター	短期SBT	長期SBT	ガイダンス
セクター共通	企業ネットゼロ基準	★	★	●
	企業短期目標基準	★	★	●
建物	建物	★	★	●
FLAGセクター	森林・土地・農業	★	★	●
金融機関 (FI)	FI - ネットゼロ	★	★	●
	FI - 短期	★	★	●
	保険	★	★	●
原料	鉄鋼	★	★	●
	セメント	★	★	●
	化学品	★	★	●
	アルミニウム	★	★	●
エネルギー	石油・ガス	★	★	●
	電力会社・発電	★	★	●
輸送	陸上輸送 - OEM/自動車製造業	★	★	●
	陸上輸送 - 道路及び鉄道	★	★	●
	航空輸送	★	★	●
	海上輸送	★	★	●
その他	衣料品	★	★	●

- ★ セクター別1.5℃経路利用可能
- ★ セクター別1.5℃経路2024/25年予定
- ★ セクター共通経路を利用するセクター
- ガイダンス利用可能
- ガイダンス2024/25年予定
- ガイダンス まだ利用不可能

- ✓ 各セクターに適格な経路、手法及びツールについての詳細は、[企業ネットゼロ基準](#)の表4を参照。
- ✓ セクター別の進展と利用可能な資料に関する最新情報はSBTiウェブサイトの[セクター・ガイダンスセクション](#)を参照。